

## 巻頭言

高知工科大学紀要第12巻を発行することとなりました。紀要は大学の活動を学内外に示すものです。今では情報発信の機会は多くあります。学術雑誌は急激に増え、様々な分野で発行されています。また、一般雑誌も無数と言ってよいほどあり、市民を対象としてそれぞれに興味ある内容を扱っています。書籍はあるまとまった内容を紹介しています。マスコミ媒体は、ニュース性のある内容を中心に読者の興味を引く内容を報じています。また、近年では、インターネットを通じた情報発信が爆発的に増えています。

そのような中で、紀要は学内編集という特徴を活かし、大学内にいてこそ見える大学の活動の状況を紹介するものです。大学の目的は教育、研究であり、その後2006年の教育基本法改正、続く2007年の学校教育法改正によって社会貢献が加わりました。その具体的な活動内容は昔に比べて格段に広がっています。教育においては講義の中味が多様化・高度化し、それをわかりやすく学べるようにすることに不断の努力が行われています。研究は国際化し、世界に先駆けて独創的な成果を出しています。一方で、日本語文化圏としての我が国の大学であるという立場は重く、国内ではまだまだ日本語を通じての研究情報の発信、社会貢献の必要性は大きなものであり、これにも力を注いでいます。さらに、社会貢献では日常、非日常を含む様々な活動を展開しており、日々発信するべき情報が生まれています。

大学におけるこのような活動は、そのすべてを外部の情報発信手段に任せるのが困難です。学内外に伝えるべき情報で抜け落ちている部分や、大学の視点から整理された情報をとりまとめ、発信するための手段の一つがこの紀要です。

この巻では、本学の社会貢献の柱である地域連携機構の活動を取り上げ、特集としてその内容をとりまとめました。この6年間の活動がどのようなものであったのか、具体的な事例も含めて全体像がわかるように記事が組まれています。大学における社会貢献は、専門性を活かしながら行われるものであり、他の人にはできない社会貢献を行うことにより、社会の中で不可欠な要素を担うことを目指しています。そうした中で、地域連携機構は様々な活動を行ってきました。大学の社会貢献が法律によって明確化されてから間もないこともあり、その内容はまだ模索中ですが、この機に機構の活動を振り返り、学内外に情報発信すると共に、今後の方向性を考えるための参考にすることは意義深いことと思います。

特集以外の記事についても、他の媒体では得られない様々な本学の活動が紹介されています。そして、それら全体を通じて、紀要の各巻が本学の道程の一里塚となるものです。紀要が読者の皆様にとって、本学の理解を深めるための一助となれば幸いです。

学長 磯部雅彦